

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	足立区舎人1-13-4
園名	アスク舎人駅前保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感と音
「音を見つけて、感じて、表現しよう」

<テーマの設定理由>

子どもたちが絵本や紙芝居を楽しむ中で物語の世界や身の回りの様々な音に興味を示す姿が見られたり、散歩や戸外活動の中でも車や落ち葉を踏む音など、日常生活の中にある様々な音に気づき関心を示す姿が見られるようになった。
また、自己肯定感を育てる描画活動に力を入れていて、気持ちを表現する力をつけてきた。そこで、音を「聴く」だけでなく、聴こえた音からイメージを膨らませ絵や色、形、動きなどで自由に表現する活動を取り入れることで、子ども一人ひとりが感じたことを表現する楽しさを味わい、音の違いに気付いたり、自分なりの感じ方や表し方に正解がないことを知ることを通して、表現することへの自信や意欲を育てていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

6月から2月初旬まで活動を行い、月に1度は講師にアドバイスをもらい、音をオノマトペで表現して絵で描いたり、イラストからイメージする音を楽器で表現してみる等に取り組む。講師との活動を元に、園独自でも季節の歌からイメージを膨らませ絵を描いたり、園内の色々な音を探したり、戸外活動時の際の音を探したりする活動を取り入れた。
4月～11月 絵本を見て、音の表現(オノマトペ)を見つける。
12月～2月 音探し、音のえほん作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境の設定】

- ・活動に合わせて机と椅子の配置をかえ、場所を広げて活動に応じて表現できるようにスペースを設定した。
- ・子どもたちの意見を細かく拾えるよう必要に応じてホワイトボードを活用した。
- ・一人ひとりが自由に表現できるよう道具の数や種類を十分に用意した。

【準備した道具】

- ・絵本、パレット、36色色鉛筆、絵の具、廃材、食紅、スポンジローラー、色々な楽器、画用紙、クレヨン、タッチの違う筆器具(筆・タンポ・スポンジ)

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・絵本や紙芝居を集中して楽しむ姿があった為、話の世界を自分なりに表現する活動を行う。絵本を見ながらストーリーに合わせてスピーカーで音を流し、想像を膨らませ、イメージした音を絵で表現したり、楽器で音を出して表現する活動を行った。
- ・日常生活の中でもいろいろな音があることに気がつく。散歩時も、車や落ち葉を踏んだ音などに興味を示すようになる。園内・戸外活動時にはどんな音が聞かれるか？いろいろな場所を叩いてみて、音探しを行った。

探究活動の様子：

- ・普段見慣れている絵本もストーリーに合った音が耳に入ってくることにより、更にイメージがふくらみ最後まで集中し見入っている姿があった。『わたしのワンピース』を描いてみようという活動では「にじいろにしよう」「恐竜の模様が良いな」と自分の好きな物を発言する子が多く見られた。
- ・園内の音探しでは「あれ？何で音が違うんだろう？」と同じ場所でも叩く物を変えると音が変わったり、「カサカサって音がした！」と葉っぱが触れ合うことでも音が出ることに気付き、友だちにも共有する姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・普段から絵本を見るのが好きな子どもたちだが、視覚、聴覚とが一緒になることにより、より一層物語の世界に入り込み、頭の中でイメージを膨らませていることが出来ていることに気がついた。
- ・「どんな音がするかな？」の問いかけに「ぐるぐる」「キラキラ」などオノマトペで答えることが多く見られるが、活動を進めていく中で「寂しい音」「可愛い音」などで表現する子も増えてきた。

5. 活動の様子が分かる写真



【4歳児実施分】

問いを考える：

・音は耳で聴くだけでなく、聴こえる音によって「明るい」を連想したり、「暗い」（おぼけ等）を連想する子どもの姿が見られた。

そこで、聴こえる音によってイメージするものが違うところから「音を色で表現する」という活動を行い、感じたことを自由に表現する経験を味わい、音の違いに気付いたり感じ方、表し方に正解がないことを知り、表現する楽しさに繋げることができるよう子どもたちへ「どんな音が聴こえるかな？」や「聴こえた音からイメージできるものを自由に描いてみよう！」という声掛けを行った。

探究活動の様子：

- ・音が長く続くと、線を長く描いたり、短い音が聴こえると、点々を描いて音を表現する姿があった。
- ・食紅や絵の具を使った色遊びの活動で、様々な色を混ぜオリジナルの色を作る姿や、子ども同士で気になった色があると”どのようにその色を作ったか”について尋ね教え合う姿があった。
- ・白と黒の鍵盤で聴こえる音が違うことに気がつき、黒い鍵盤の音は「おぼけみたいな音がする」といった声上がり、暗いイメージのあるものを連想する姿があった。
- ・オリジナルのワンピース作りでは、色を塗る際に全色を使おうとする子や「プリンセス柄にしたい」「虹色にしたい」という声があがり、作りたいワンピースのイメージが子どもそれぞれで違っていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・活動を始めた当初は「音をどうやって色で表すの？」といった声が多く上がっていたが、活動を重ねていくうちに音の違いに気づく姿が見られ、音によって模様の描き方や同じ音を聴いていても子どもたちそれぞれでイメージしているものが違っていることに気が付いた。
- ・色鉛筆や絵の具・食紅を使った活動に興味を示す子が多く、活動に最後まで飽きずに参加していることに気が付いた。

5. 活動の様子が分かる写真



【5歳児実施分】

問いを考える：

・遊びの中で、玩具同士がぶつかる音や自分の体を動かした際などに聴こえる音を「何か今聴こえた！」「カンカンって音がした！」と興味をもつ姿から、「音って目に見えるかな？」「聴こえた音を自由に表現してみよう」という問いかけをした。ピアノの音を聞いて、自分なりに絵で表現したり、身近な物から鳴る音を見つけたり、「見えないけれど聴こえる音」を日々の活動の中で見つけ、表現する楽しさを味わえるような声掛けや取り組みを行った。

探究活動の様子：

・ピアノの音を表現する取り組みでは、長調は「楽しそう」「面白そう」「嬉しい」といったポジティブな感想が聴こえ、明るい色や弾んだ線や形で表現していた。短調は「悲しい」「嫌な気持ち」「暗い」といったネガティブな感想で、暗い色で静かな表現を見られた。

・絵本の中から見つけた音を、身近にあるもので再現する活動では、「カンカン」や「パタパタ」など同じ音でも、子どもによって使うものが異なり、聴こえ方も異なる様子だった。また、同じものでも違う音に聴こえることもあった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

・普段から描画活動に積極的に取り組んでいることもあり、絵での音の表し方に豊かな個性が見られた。同じ音でも、色や形の捉え方が異なったり、同じものから聴こえる音も表し方が異なる様子が可視化された

・クラシックを聴いて、絵で表現するときには、「踊っているみたい」「怒ってるみたい」など頭の中で思い浮かべた情景を、それぞれ自由に表現することができており、またそれを見せ合うことで、色んな捉え方があることに、子どもたちも気づいた様子だった

5. 活動の様子が分かる写真



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	足立区舎人1-13-4
園名	アスク舎人駅前保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【バランス力をあげよう】
「どうやったら乗れるかな?」「どうやったら転ばないかな?」「どうやって体を動かしたらいいのかな?」という子どもの疑問を問いとして設定する

<テーマの設定理由>

体幹が弱い子どもが多く、年間で体幹プログラムを作成し、体幹を鍛える取り組みを始めた。バランス力は、走る、跳ぶ、登るなど運動遊びの土台となるだけでなく、姿勢の保持やケガの予防にもつながる力である。子どもたちの現状の様子からも不安定な場所を歩くことや片足で体を支えることに難しさが見られる場面があるため、遊びの中で楽しみながらバランス力を育てていくため。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に1度、体操講師にアドバイスをもらい、バランスとは何かを考え言葉にし、体を動かしていきながら、探究をしていった。子どもたちと体を動かしながら、使っている体の部位やどんな遊びや動きにバランスが必要かを見つけていけるよう問いかけや内容を考え、必要な器具なども準備していけるようにした。
4月～12月 片足バランス計測 運動器具を使って体の力の入る場所について探究
1月～2月 バランス力の必要なサーキットづくり 片足バランス計測

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(実際に体を動かして取り組むため、ケガ等が起きないように、十分に広いスペースを作った子どもたちの意見を細かく拾えるように、適宜ホワイトボードを活用した)

【準備した道具】

ぽっくり、てんぐぽっくり、平均台(丸 / 平)、クッション平均台、マット活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

・集中力が持続しない、椅子に座る姿勢が崩れる、転んだ際にとっさに手が出せないなどの課題があり、今年度より、園全体での体幹プログラムが始まった。色々な運動を行う中で『バランス』という言葉に着目し、身体の使い方、力の入れ方を知り、体幹を鍛えられるようにテーマを設定。「この動きはどこに力が入っているんだろう。」と子どもたちへの問いを拾いながら探究活動を進めていった。

・片足立ちで何秒立ってられるか、フラフラしないで立つにはどうしたら良いか？から始まり、その後は色々な運動器具を使用し、バランスの取り方、体のどこに力が入っているのかを考えていった。後半はゲーム遊びを多く取り入れながら活動を進めていった。

探究活動の様子：

・最初に片足立ちで何秒立てるかのタイムを測定したところ10秒立てない子も多く、「難しいよ！」とすぐに足をついてしまう状況であった。繰り返し、いろいろな器具を使いながら身体を動かし、どこに力を入れたらバランスがとれるのかを自分たちで考えたり、「手を横にピッとしたらふらふらしないよ」など、意見を出し合う姿が見られるようになっていった。片足立ちも、しっかり手を広げ、自然とバランスを取り、長く立ってられるようになった。

後半からは楽しみながらバランスや体幹を鍛える集団ゲームの活動を多く取り入れた。簡単なルールを保育者が設定し、子どもから意見を引き出すと「次はワニさん歩きにしてみようよ！」「こういう風に動いたらどう？」「うさぎジャンプがいい」など、色々な動きのリクエストがあり、意欲的に活動に参加することが出来ていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

当初は片足立ちが10秒できない子がほとんどであったが活動を進めていく中で、運動によって身体のどこに力を入れたらいいかを知り、繰り返し行うことで体幹が鍛えられ今では30秒以上立ってられる子も増えている。日々の保育の中でも子どもたちから運動遊びがしたい、との声が多く聞かれるようになり、「この動きはどう？」などの発言も増え、積極性も見られるようになった。楽しみながら活動を行っていくことが何よりも大事だと思った。



【4歳児実施分】

問いを考える：

今年度から園全体で体幹プログラムを行い、片足バランスや体幹を使った遊びの活動を多く取り入れて来た中で、「バランスって何だろう？」という問いかけを子どもたちへ行い、体操のすくわくプログラムを通して「バランス」に着目し、平均台渡りやオリジナルのサーキットコース作り、体幹を使った遊びにはどのようなものがあるかについて子どもたちと一緒に考えながら活動を行った。

探究活動の様子：

- ・「バランスって何だろう？」という問いかけに対し、「飛行機・すずめ・フラミンゴ」等の答えが挙がり、名前が分からないものには実際に行っている姿を見せバランスについて考える姿が見られた。
- ・平均台を取り入れたサーキットコース作りでは、お友だちと協力をしながら「ここはどうしようか？」「ここはどうやって繋げようか？」等の話し合いを行いながら進める姿が見られた。
- ・バランスを上手く取るために「どこに力を入れるか」を意識しながら運動遊びに参加していた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・すくわくプログラムを始めた当初は「バランスって何？」という声が多く挙がり、平均台渡りも途中で落ちてしまう子がほとんどだったが、バランスとは何か、バランスを使った遊びにはどんなものがあるかを考える活動を通して子どもたち一人ひとりがお腹や手、頭、背中など力をどこに入れるかを意識しながら運動遊びを行っていることに気が付いた。
- ・バランス力を身につけるために探求活動を行ってきたことで、数日でも片足で立てる秒数が15秒から100秒に変化するなど、全体的に身体能力が上がっていることに気が付いた。

5. 活動の様子が分かる写真



【5歳児実施分】

問いを考える：

「バランスってなんだろう？」という問いかけから、子どもが純粋な疑問や意見を挙げ、「じゃあバランス力を身に付けるためにはどうしたらいいかな？」と、あそびや活動を子どもたちから提案してもらい、実践した。初回に片足バランスの秒数を計測し、最終回にも同じように計測した。「バランス力を身に付ける」ためのあそびとして、だるまさんが転んだ、信号ゲーム、2人組体操が提案された。てんぐぼっくりに取り組みんだり、子どもたち自身でサーキットを作り実践した。

探究活動の様子：

てんぐぼっくりや平均台は、初めはバランスを取るのが難しく、上手く乗れない子が多かったが、「紐をピン！とするといいんだよ」「足はここに乗せるんだよ」と得意な子が他児にコツを共有することで、力を入れる部位を意識し、上達していく姿が見られた。サーキットづくりでは、初めは保育者や講師が大まかに道具を配置していたが、「エス棒は2本並べよう！」「斜めにしてみる？」「これくらい間を開けてみよう！」など次第に子どもたちから活発に意見交換や提案があり、間隔を広くしたり接続する向きを変えたりして、より高度なサーキットが組み立てられるようになった。上記全ての活動において、グループごとに意見交換や提案をし、バランス力が増すごとに、より高度な取り組みへと発展していった

ふりかえり(保育士の気付き)：

初回に計測した片足バランスの秒数が、最終回での計測時に全員が伸びており、子どもたち自信も成長を実感していた。初めはバランスを取ることが苦手な子も、子どもたちが提案したあそびやサーキットなどの取り組みを重ねることで、体幹が育ち、日々の保育の活動においても体幹の安定を実感することが増えた。体操講師との活動では、前回以降の取り組み内容や自身の成長を報告する姿が見られ、子どもたち自身も「バランスできるようになった！」と自信がついたり、日々のあそびや活動で意識して体を動かす姿も見られた。

5. 活動の様子が分かる写真

